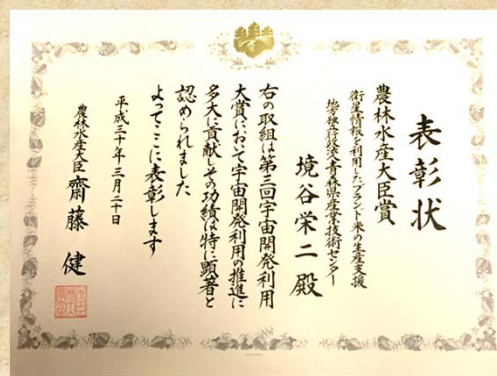


# 第3回宇宙開発利用大賞 農林水産大臣賞

「青天の霹靂」ブランド化に向けた衛星リモートセンシング技術の取り組みが、宇宙開発利用の推進に先導的で多大な貢献をしたと評価され、内閣府主催の同大賞で、農林総合研究所生産環境部の境谷栄二部長と工業総合研究所電子情報技術部の小野浩之部長が農林水産大臣賞を受賞しました。【農林総合研究所・工業総合研究所】



表彰式 (2018.3.20)



**事例名** 衛星情報を利用したブランド米の生産支援  
**受賞者** 地方独立行政法人 青森県産業技術センター 境谷栄二、小野浩之  
青森県農林水産部 井上貴裕

**事例の概要**  
青森県の新品種「青天の霹靂」ブランド化に向け、高品質な米の生産を支援するため、津軽地域の13市町村で、2016年から衛星情報の利用を始めた。衛星画像から収穫時期を水田一枚ごとに予想する「収穫適期マップ」を作成してWebアプリで提供し、生産者は、携帯端末で同マップを開覧して適切な時期に収穫する。このほか、食味の目安となる玄米タンパク質含有率や土壌の肥沃度も、衛星画像からマップ化し、そのデータを基に営農指導員による生産者への生産指導も実施している。

**選考委員会講評/受賞のポイント**  
ブランド米「青天の霹靂」の品質管理のため衛星画像を利用する方法を開拓し、実用化した点を評価。すでに1年の利用実績があるなど、農作物の品質向上の成果を挙げている点を評価。米以外や他地域への展開も期待。

**受賞経緯**  
Webアプリ(衛星・収穫適期マップ) 2017年  
用途: 予想される収穫日を利用者に分かりやすく伝達する  
開発者: 青森県産業技術センター  
ユーザー数: 566名  
利用状況: スマートフォン: 77%, タブレット: 10%, PC: 12%  
(Webアプリへのアクセス状況から推定) 2017.9.4~10.20  
② 営農指導員の営農指導  
画像に印刷した指導員の割合: 100%  
③ 営農指導員が現場で活用する割合: 96%  
アンケート実施: 2017.10.10~10.24、回答数: 23名

**賞状**  
「青天の霹靂」(2017年)  
衛星画像から収穫適期を推定し、水田ごとに色分けしたマップ  
用途: 食味の目安とされるタンパク質に基づき、肥料の使用量を最適化するに利用

**賞状**  
工業総合研究所(2016年)  
衛星画像から土壌の肥沃度を推定し、水田ごとに色分けしたマップ  
用途: 農地は土壌の肥沃度に基づき、水田を最適化するに利用



表彰式には安倍総理が出席されました